

## 【栄区】令和5年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和5年9月5日（火） 午前10時30分～午前11時30分
場 所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	<p>【座長】長谷川えつこ議員</p> <p>【議員：2名】大桑正貴議員、輿石かつ子議員</p> <p>【栄区：31名】堀口和美区長、今仁知宏副区長、 横森喜久美福祉保健センター長、 大野豊福祉保健センター担当部長、 小野範子福祉保健センター医務担当部長、 宍戸由範土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和4年度個性ある区づくり推進費決算について</li> <li>2 令和5年度個性ある区づくり推進費執行状況について</li> <li>3 令和6年度栄区予算編成の考え方について</li> <li>4 会議報告書作成について</li> </ol>
発 言 の 要 旨	<p>（説明省略）</p> <p>大桑議員：決算調書に記載のある自主企画事業費の差引額は、約500万ということで、毎年これぐらいだったのか。区分別総括表では、当初予算額と現計予算額で1,000万ぐらい違うが、コロナ等で増えたものなのか。</p> <p>伏見和久総務課長：自主企画事業費の差引額は例年どおり。1,000万の現計予算額の関係は電気代。電気料金が上がり各区とも足りなくなったため、2月に市民局で補正予算を組んで、各区に配分された。</p> <p>大桑議員：結果的に1,000万ぐらい残ったということか。いろいろな事業費の余りがあったのか。</p> <p>伏見和久総務課長：はい。一番大きな要因は、電気代だが、それ以外のものを全部含めて、結果的にこの部分が余ったということ。</p> <p>大桑議員：令和4年度のスクールゾーンは、まだコロナ禍だったので書面開催が多かったのか。実際にリアルでやったことはあるのか。</p> <p>谷川みちる地域振興課長：令和4年度は書面開催と集合開催を行い、対面は1校のみ実施した。</p> <p>輿石議員：令和4年度の地区センターの利用状況は、豊田地区センターと</p>

上郷地区センターは通常どおりだったと思うが、本郷地区センターはSAKAE STAになった。旧本郷地区センターは集団接種会場や、そのほか暫定利用されており、令和4年度中もそうだったと思う。決算調書に3か所と書いてあるが、旧本郷地区センターは地区センターではなくなったのか。決算上どうなのか。令和4年度については、地区センターは4か所というカウントではないのか。

今仁副区長：地区センターは3か所。令和4年度は既にSAKAE STAになっており、旧本郷地区センターについては建物という形で残っていたので、そこを活用し予防接種会場にした。予防接種会場の経費については、局からの予算を使っているのだから、地区センターについては3か所になる。

興石議員：旧本郷地区センターは、所管はまだ市民局にありながら、医療局が使用していたのか。

今仁副区長：財産的には区の財産、市民局のもの。空いている状況だったので、予防接種会場として使用した。

興石議員：光熱費や維持管理にかかった費用は、自主企画事業費を使ったのか。

伏見和久総務課長：旧本郷地区センターは区の所管。休日急患診療所の仮設で使用しているため、今の所管課は福祉保健課になる。その前は、地区センターだったため地域振興課でやっていた。予防接種の期間は、健康福祉局に使用承認をしていたが、いずれにしても区の所管になる。地区センターとしては数えない。光熱水費については、一部消防も使っているため、消防が使用する分は消防が払い、区で使用する分については区で払っている。

興石議員：この先の建物の在り方が気になっているため、質問をした。  
老人福祉センター、翠風荘だと思うが、大分予算が残っている。どうということか。

谷川みちる地域振興課長：老人福祉センターの不用は、指定管理料に含まれていた修繕費の残となっている。

興石議員：修繕するための予算を確保していたが、それを使い切っていない。修繕は結局どのようになったのか。

谷川みちる地域振興課長：予定していた修繕は済んだが、この分は使わずに済んだ。

興石議員：修繕は目指す姿に完成できたのか。予算が残っているということは、計画が途中で変更になったということか。改善を望む声が根強くある。修繕等を含めてもう少し予算を残すことなく、何かよりよい使い方があったのでは。

谷川みちる地域振興課長：予定していた修繕は計画どおりに行ったが、電気代の高騰があったため、指定管理料において経費の節減を図った。

興石議員：指定管理料を縮減し、設備関係の修繕は全部完成したが、運営の面で圧縮した部分があったということか。今度、詳細を教えてください。

長谷川座長：魅力発信・にぎわいあるまちづくりについて、みんなが主役のまちづくり協働推進事業が新規で行われ、今回、全体の予算の執行率が82.9%で、新規申請団体が少なかったことによる減となっている。どういったところから申請があったのか。逆に申請が少なかった理由、見解をどのように考えているのか。

セーフコミュニティについてS C自殺予防対策分科会が行われたということだが、前期、栄区内での自殺と思われる死亡事例というのは何件ぐらいあったか。分科会をやることによって、今後、予備軍とされているそういった思念心理を持つ方にどのような働きかけができるのか、具体的な案があるか。

庁舎環境整備事業について、ICTの活用がなされたということだが、これによって、来庁される方々にどのような利便性が図られ、どういった効果があったか。一定の効果があったのであれば、具体例などを教えてほしい。

齊藤誓区政推進課長：みんなが主役のまちづくり協働推進事業での4年度の申請については、この事業が市民局の区配のものと、区づくり推進費の部分があり、区づくり推進費の新規で申請があったのは5団体になっている。具体的には、さわやかポールウォーキングの団体、ボディケア・ストレッチを地域ケアプラザで活動している団体、手話ダンスの会ツクシという団体で、手話ダンスを通じた集いの場を桂台地域ケアプラザで実施しフレイル予防などを行っている団体、4つ目が野七里ろばかふえて、認知症カフェの団体になり、野七里地域ケアプラザで活動している。5つ目がオミヤクリーン小菅ケ谷という春日神社周辺の美化活動や太鼓の

練習など、地域文化に触れる体験なども実施している団体の計5団体から申請があった。

申請が想定より少なかった理由は、もともと区配では複数回申請できる制度になっていたが、区配の補助対象が縮小され、市のほうでは新規を受けていない中で、栄区独自に新規を受けているというような状況があった。周知が十分行き届いていなかった面もあるので、今年度は複数回募集するなど工夫している。

長谷川座長：素晴らしい活動をされている団体がたくさんあるので、このようなものがあるということを知っていただきたい。

齋藤修身福祉保健課長：現在、最新の数字は令和3年度のもので、令和3年度の栄区の自殺死亡者の人数は20名。内訳は、男性が13名、女性が7名。ここ数年のトレンドとして、自殺者については減少していたが、令和3年度は令和2年度と比べて6名増えている。誘因は断定できないが、自殺者の内訳を見ると、20代4名、70代6名、これで半数を占めている。1つはコロナでひきこもり生活をされている、生活に困られているところで、なかなか外の付き合いがない中で悩んでいる方が若干増えている。今後、令和4年度や令和5年度の数字を確認しながら、自殺対策について考えていきたい。

セーフコミュニティの分科会としては、10月で終了ということで、座長とも相談しており、自殺に関しては、外に出てこれられない方々の複数のサインを受信する感度を高めていくことが大事なのではないか。自殺に対する理解、ゲートキーパーなどを中心に、講演会、研修会、普及啓発などを行い、本人に対するシグナルを送っている方への感度を高めることを、地道にやっていくことが必要なのではないかという話になった。引き続きこのような取組をしていきたいと考えている。

長谷川座長：本当に様々な要因がある中で、最後の決断を食い止められるような環境を地域一体でつくっていったらと思う。小さなシグナルを見過ごさないような取組をぜひお願いしたい。

伏見和久総務課長：公衆Wi-Fiの利用件数での報告となるが、月に500から600件程度利用があり、令和4年12月は1,000件を超える利用があった。ばらつきはあるが、伸び率もある程度あるので、一定程度、利便性という意味では効果があったと感じている。

長谷川座長：栄区で、もしも手帳を配布していると思うが、同時に、横浜市でつくられた人生会議というビデオを利活用しているか。栄区では、もしも手帳を何部作製し配布したのか。

松原実千代高齢・障害支援課長：もしも手帳やACP、人生会議については、区役所では待合スペースのデジタルサイネージ等を活用し、簡単な動画を流したりすることで周知・啓発に活用している。

もしも手帳の配布数は、区ではなく局で作成しているため、後日回答する。

大桑議員：みんなが主役のまちづくり協働推進事業で、区は新規の受付を行い、市では受付をしないということだが、いつから受付を行わなくなったのか。

栄区民ロードレース大会はリアルだけなのか。それとも、今までみたいな形式のものと一緒にするのか。

SC自殺予防対策分科会について、自殺対策は今やっているところだと思うが、どういうことをやっているのか。学校も始まっているので、20代という話もあったが、10代も、学校に行きたくないという子もいると思うので、何か取組があったら教えていただきたい。

本郷台駅前のまちづくりは、ぜひ順調に進めていただきたい。

区民まつりについて、先日開催された駅前祭りでは、思った以上の人出で、時間帯によってはすごかった。駅から出てくる人が真っすぐ通れなかったし、私の行った時間は本部テントに行くのも大変だった。去年の区民まつりはコロナもあったので流れを整理していたが、そうすると、多分外がすごい行列になってしまう。今年は、入場制限はしない等いろいろあると思うが、区民まつりを今までどおりやるとなると、人がすごいことになってしまうのではないかと先日の駅前祭りを見て感じた。そこはちょっと工夫をしてほしい。

両親教室、メンタルヘルス相談については、通常に戻ってやっていると思うが、人数的にコロナ前に戻ってきているという認識でいいのか。

矢口照彦こども家庭支援課長：両親教室、メンタルヘルス相談に関しては、コロナの時と違って、特に制限等は設けていない。今は通常に戻っているという状況。

大桑議員：埋まっているということか。

矢口照彦こども家庭支援課長：はい。両親教室に関しても埋まっている。

谷川みちる地域振興課長：栄区民ロードレース大会については、コロナの最中はウェブ開催で参加してもらったが、今年はリアルな形で開催する予定である。

区民まつりについて、昨年度は、入口のところで消毒や検温を実施していたのが主な原因で列をつくってしまった。今年は、会場内を滞留しないような形でレイアウトを配置し、入口の検温等は行わない予定。引き続き安全な開催を目指していきたい。

齊藤誓区政推進課長：みんなが主役のまちづくり協働推進事業の補助対象について、区配予算で新規が対象にならなくなったのは令和4年度から。継続している団体は上限として2年の補助を受けられる。継続団体は局の区配予算の対象にしており、新規は個性ある区づくり推進費で対応となっている。

大桑議員：理由はあったか。いろいろところで予算を見直さなければいけないので当然だとは思いますが、それは個性ある区づくり推進費でやってくれということなのか。見直しの中で、いろいろな団体も育ってきたからということなのか。

齊藤誓区政推進課長：平成29年度ぐらいから、毎年予算が減少してきていることが理由。

齋藤修身福祉保健課長：自殺については、今後、3月、9月の自殺対策強化月間で、普及啓発のチラシの配布、図書館を活用した企画展、必要に応じて講座などを実施する。SC自殺予防対策分科会が終了することも鑑みて、今後は地域福祉保健推進会議で、自殺に関しても必要に応じて議論する場として考えていきたい。まだ令和3年度までの数字しかないので、令和4年、令和5年と積み上げながら、いろいろ考えていきたい。

興石議員：自殺について、一人一人の状況の把握というのは、セーフコミュニティがなくなって福祉保健センターになるが、横浜市全体で子どもを中心とした子どもファーストの施策を打っていきこうということになった。文科省でも不登校の学校、特例校の表現を「学びの多様化学校」に名称を変更した。考えていると思うが、一人一人の状況の把握を、ゲートキーパー等、本当に徹底していただきたい。既に何か精神的なこと、心療内科や自立支援の組織等に

つながっていた人たちなのか、それとも、全くその存在を知らな  
いで亡くなってしまった人なのか、その辺の把握は令和3年の数  
字でできているのか。

齋藤修身福祉保健課長：対象の方について心療内科等にかかっていたかと  
いった病歴の内訳等について把握していない。今後、そういうこ  
ともしっかりキャッチして、原因を求めていくような対策にして  
いきたい。

興石議員：栄区の特徴として、障害のある方、生きづらさを抱えている方、  
身体の障害、精神の障害や、障害ではなくて普通に子育てをして  
いる人が一堂に会せるような仕組みがあり、後見的支援制度とい  
う制度の受皿となるところが次世代交流ステーションの中にあ  
る。現状、数字が届かない。福祉に厚い区で、これからも子育て  
しやすいまちを目指していくようになると思うので、令和5年の  
後半部分でそのあたりを強化していただきたい。

齋藤修身福祉保健課長：個々の方の病歴は、プライバシーに係る部分でも  
あるので、慎重に考えながら、一番大事なのは命だと思うので、  
対応については考えていく。

興石議員：子育てとの連携もとても重要になってくると思う。子育て・子  
ども応援事業で、父子手帳の作成等、多くのことをやっているの  
は分かっているが、もっとできるのではないか。出生率は分かっ  
ているか。

矢口照彦こども家庭支援課長：出生率は分からないが、出生数は毎年栄区  
で約750件と横ばいで推移しており、変化はそんなに大きくない。

興石議員：子どもを産みたくなるまちで、少し数値目標を掲げてもいいの  
ではないか。栄共済病院は以前、出産できない時期があったが、  
病床を整えてもらい、前市長も視察に来た。子どもを産めるま  
ちになったため、出産数を増やすような数値目標もいいのではない  
かと思う。

マンション防災について、建築局の横浜防災力向上マンション  
認定制度があるが、栄区では3つのマンションが認定を受けてい  
る。認定されたことをさらに生かし、マンション同士のネットワ  
ークを組んで情報共有をしたい、まだ手が挙がらないところでマ  
ニユアルづくりにもう少し区のサポートが欲しい等の声がある。  
マンション防災について、考えを聞かせていただきたい。

	<p>伏見和久総務課長：マンション防災の関係は建築局の事業で、区づくりではないが、昨年度、7連合を中心に働きかけをした。結果、3つのマンションが認定を受けた。栄区のマンションからすると、認定率は非常に高いという印象を持っている。そういった働きかけは、5年度は今のところ予定はないが、出前講座などを含めた防災関係の勉強会については引き続きやっており、その中で必要な意見交換をやっていきたい。</p> <p>会議報告書の作成については座長一任。了承</p>
備 考	